

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第2回実務委員会  
議事要旨

1. 日時 平成20年1月10日(木) 15:00~18:00
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 生出委員, 関根委員, 徳田委員, 中山委員, 矢吹委員,  
吉山委員, 徳重委員, 相澤委員, 吉岡委員, 田中委員

4. 会議の概要

(1) 新委員の紹介

- ・ 新委員吉山委員の紹介があった。

(2) 「病院の言葉」委員会第1回実務委員会の議事録確認について

- ・ 第1回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。
- ・ 議事要旨は、委員会のホームページを通して公開することとした。

(3) 語彙選定作業について

- ・ 語彙選定作業の方法と手順について討議した。

(4) 調査について

- ・ 医療従事者調査(第二次), 国民調査の企画について討議した。

5. 討議における主な意見

① 語彙選定作業について

- ・ 「膠原病」のような説明の非常に難しい言葉は、時間をかけてじっくり説明して納得してもらえない言葉であり、ひとことで分かりやすく説明するのは不可能である。このような語をこの提案に取り上げるのは妥当だろうか。
- ・ 「膠原病」のような言葉は、確かにひとことで説明することが困難な言葉であるが、避けては通れない言葉である。取り上げないのではなく、反対に、特にていねいに説明すべき言葉として取り上げ、医療関係者の注意を喚起するのが良いのではないか。
- ・ 「メタボリックシンドローム」のように診断の基準が揺れていたり批判があつたりする語については、重要な言葉であっても現段階では取り上げるのを見送るという判断

もあり得るだろう。

- ・ 「膠原病」「メタボリックシンドローム」などに限らず、取り上げることの適否について、問題を感じる言葉があれば、その理由とともに作業シートに書き込んで指摘するのがよい。
- ・ 医師調査から挙がってきた語に「クラスⅡ」があるが、細胞診のクラス分類において「クラスⅡ」のみを取り上げるのは妥当ではない。医師の回答をそのまま生かしているのではやむを得ないが、見出し語の立て方には工夫が必要である。
- ・ 「クラスⅡ」のような場合は、判定の印をつけた上で、コメントに「「クラス」の形で採用」などと記入するのが良い。見出しの語形を変えることも可能であるので、コメント欄にはなるべく詳しく考えを記入するのが良い。
- ・ 語彙選定にあたっては、言葉の問題の類型を網羅するという意識を持ってそれぞれの類型を代表する語を選ぶといった観点が、提案に向けた今後の作業を考えると有効なのではないか。
- ・ たとえば「数値表現」という問題の類型にまとめた語群の中にも、異なるタイプのものが含まれるようである。類型の中のサブ類型も意識することが大切である。
- ・ 今回、作業対象として取り上げた語以外にも大事な語があると思うが、それら漏れてしまった語への対処は、最終的な決定に至るまでのいずれかの過程で行うこととしたい。
- ・ 厚生労働省による「安心と希望の医療確保ビジョン」第1回会議が今年1月7日に開かれ、「医療サービス」「インフォームドコンセント」などの言葉の弊害についても言及があった。分かりにくい言葉をきちんと分かるように言い換えようという「病院の言葉」委員会と同様の問題意識に立つ活動として紹介する。

## ② 調査について

### ○医療従事者に対する調査（第二次）

- ・ 回答者の職種、診療科には配慮が必要である。一人の回答者にすべての語について質問するやり方以外に、薬に関連する語は薬剤師に聞く、目に関する語は眼科医に聞くというように、専門に応じて質問する語を振り分けることも考えられる。また、各職種、診療科が一定の割合で含まれるように回答者の集合をあらかじめ設定しておくことも考えられる。
- ・ 看護師や放射線技師といった職種の人も対象に含める必要があるだろう。
- ・ 回答者の職種などをあまり考慮しすぎると混乱してしまう。ある分野は回答できないという回答者が含まれることを踏まえた上で、全員に同じ語を一律に尋ねるのが良い。
- ・ 血液を専門とする医師は「好中球」を重要視するというように、回答に専門分野によ

るバイアスがかかってしまう恐れがある。回答者が特定の診療科に偏らないように配慮すべきである。

#### ○国民に対する調査

- ・ 質問文を文章の形にすると、回答を誘導してしまうのではないか。語だけを提示する形式の方が良いのではないか。
- ・ 誤った選択肢を作成するのは困難ではないか。問題作成は誰がどうやって行うのか。
- ・ 誤答例は、医師対象の一次調査の回答やインターネット上の情報を活用すれば、作業部会で作成できるのではないか。
- ・ 意味が「分からない」という選択肢を選んだ人に、適切と思う意味を選択してもらう必要はあるか。
- ・ 意味が「分からない」と回答した人が、その語をどのように間違えるのかを知ることができる。また、正解が多ければ、その語は分からない人に対しても使っても良い語と考えることもできよう。
- ・ インターネット調査の場合、回答の途中で分からない言葉を検索サイトで調べたり、周囲に聞いたりする人が必ず現れる。それを防ぐ対策が必要である。例えば、回答時間に制限を設ければ、インターネット調査でも調べた上での回答を避けることができる。

以上